

# 顔が見える関係づくり 各務原市鵜沼中地区民生委員児童委員協議会

各務原市民生委員児童委員協議会は8つの単位民児協で構成され、各地区で日々活動に励んでいます。

今回はその中の1つである、鵜沼中地区民生委員児童委員協議会について、事務局よりご紹介いたします。

## 鵜沼中地区 民生委員児童委員協議会 について

鵜沼中地区民生委員児童委員協議会は民生委員・児童委員31名、主任児童委員2名から成り、鵜沼第一小学校、八木山小学校、各務小学校の3つの特徴ある小学校区で形成された単位民児協です。

鵜沼第一小学校区は、各務原市の南東部に位置し、南部は古くから三世代家族が多く、名勝木曾川が流れています。北部は、中水道鵜沼宿・国道21号に沿って、商業施設が発展して新興住宅が増えた新旧の顔を持つ地域です。

八木山小学校区は鵜沼第一小学校区の北に位置し、1970年代に里山を造成して団地が建設され、1973年に完成しました。昨今は少子高齢化が進んでおり、高齢化率は45.4%（2024年）となっています。

各務小学校区は、市の北部に位置し、南北に広がって芋ヶ瀬池や各務野自然遺産の森があり、自然環境に恵まれ、歴史や遺産も多い地域です。

現在、地域全体が高齢者世帯中心となっているため、移動手段や介護施設、見守り体制の充実が福祉課題となっています。

鵜沼中地区民生委員児童委員協議会は、令和5年度から2年間、全国社会福祉協議会が実施する民生委員互助共励事業である「指定民生委員児童委員協議会」に指定され、地域住民が安心して暮らせるよう、自治体等と連携し、市民と行政のつなぎ役として積極的に活動しています。その活動は、各務原市の広報紙の表紙にも取り上げられました。



広報紙12月15日号 訪問活動が掲載された広報紙

## 鵜沼中地区 民生委員児童委員協議会の 取り組み

鵜沼中地区民生委員児童委員協議会は、関係機関等との連携・協働（双方向で顔の見える関係づくり）により、住民の良き相談相手として寄り添い、必要な支援につなげていくことを目標に活動しています。地区独自の取り組みとして、75歳以上の一人暮らし世帯及び80歳以上の世帯を対象とした「友愛訪問」を令和6年の7月〜12月に2,400人を対象に実施しました。訪問時にはメッセージカードや「いつまでもお元気で」と書かれたウエットティッシュなどを持参し、地域住民の良き相談相手となるための関係作りを努めました。



令和6年7〜12月の友愛訪問で配布したウエットティッシュなど

## 友愛訪問を実施した委員の 感想と今後の課題

友愛訪問を行った委員からは様々な感想が寄せられ、「友愛訪問が訪問のきっかけとなった」、「民生委員・児童委員の認知度が向上した」、「顔と名前を覚えてもらうことができ、担当地区をより深く知ることができた」、「訪問を喜んでもらえる、お礼の言葉をいただき、活動の成果を感じた」など友愛訪問を行うことで、住民との関係性を築くことができました。

一方で、「急な訪問に対して不信感を抱かれることがある」、「自治会未加入者の情報入手や関係作りが難しい」といった意見もあり、面識のない方や訪問活動に理解が得られない方への対応が今後の課題です。

各務原市民生委員児童委員協議会事務局としては、これらの意見を踏まえ、委員の方々が活動しやすい環境整備を進めるため、広報紙等を利用した周知活動を強化し、民生委員・児童委員の認知度向上に努めていきたいと考えています。